

上野「文化の杜」新構想推進会議WG 中間報告（概要）

検討の経緯

- 上野公園に集まる日本屈指の文化教育・学術機関が相互に連携・協力し、それぞれが保有する文化芸術資源の潜在価値を顕在化させ、上野「文化の杜」として国際的なシンボルとなることを目指す。
- 平成25年12月24日に青柳文化庁長官、宮田東京藝術大学長を発起人代表として、上野「文化の杜」新構想推進会議を立ち上げ、同会議の下に、機動的・実質的な議論を行うワーキンググループを設け、年間3,000万人の集客を可能とするために必要なハード・ソフト両面にわたる整備方策について検討。平成26年1月以降、計9回にわたる検討を行い新構想のWG中間報告をとりまとめた。

世界最高水準の文化芸術都市へ（新構想コンセプト）

- 日本屈指の博物館、美術館等の文化・教育施設が集まる上野「文化の杜」は、ロンドン、パリ、ワシントンDC等の海外主要都市と比較しても遜色はなく、世界的な文化芸術都市を形成するにふさわしいポテンシャルを有している。
- 2020年のオリンピック・パラリンピックを契機に、各施設等の文化芸術資源の有効な活用に向けた取り組みを推進し、国際的な文化交流の拠点とするための基盤整備を進め、世界最高水準の文化芸術都市を形成する。
- 現在、上野「文化の杜」に所在する各文化・教育施設等の有料・無料入場者数は年間1,300万人を超えているが、各施設間の連携を発展させ、魅力ある活動や情報発信により「文化の杜」全体として、年間3,000万人の集客を図る。

文化芸術資源の活用に向けた取組の推進

1 魅力あるイベント等の共同実施

(1)年間を通じた集客拡充を図るための「共通イベントや文化プログラム等の実施」

- 国内外からの一流アーティストや若手芸術家等が「文化の杜」に結集し、年中イベントや多彩な文化プログラムを実施。
- 世界中のあらゆる人々が集う文化芸術フェスティバルを、すべての文化・教育施設の連携による共同開催を実施。
- 文化芸術と教育をコラボさせた体験型のイベントやワークショップを開催、子ども向け文化・芸術体験メニューを提供。

(2)観光客等の利便性(集客)を高めるための「共通入館券の発行等」

- 特別展を含む共通入館券又は共通パスポートの発行の試行に着手。利用の簡便性を高めるため、PASMO(パスモ)等のICカードやスマホの活用等による共通自動入館システムの導入を検討。

- 博物館・美術館等の各施設の休館日をずらし、毎月無料開放日を設けるなどの集客のための取組を検討。
- ICOM カードにより、世界の主要な美術館に無料で入館できることから、2019年の京都の ICOM 大会誘致と連携し、「文化の杜」で実施。

2 グローバル化を先導するための「効果的な広報戦略の展開」

- 情報ポータルサイトの構築、ソーシャルメディアの活用、WI-FI 環境の整備、空港や交通機関での共通広告の掲載等、広報に注力する。
- ガイドブック等への効果的な情報展開で外国人観光客を呼び込む。

3 国立西洋美術館の世界遺産登録の推進

- ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館は、台東区をはじめ、商店街、地域住民等が協力し、世界遺産登録に向けてPR活動を展開。
- 世界遺産登録はソフト面での大きなインパクトとなり、登録に向けた取組みを、「文化の杜」として推進。

4 安全・安心で入場、観覧できるための「バリアフリー化の推進と利用促進」

- 多言語化及び案内表示の統一化によるわかりやすいサイン計画の充実を図る。公園内の段差解消エレベータ等の設置、障がい者用駐車場の整備等、バリアフリーの一層の推進を図ることが必要。
- 「障がい者見学デー（仮称）」を各館で一斉実施等の取組を検討。

5 上野「文化の杜」を担うための「職員の資質向上と高度専門人材育成（連携型）」

- 東京藝術大学で計画されている国際芸術リソースセンター（IRCA）を拠点とするアーキビスト育成システムの構築等、文化発信、国際的に活躍できるアートマネジメント人材等の育成を図る。

6 上野「文化の杜」新構想の可能性を広げるための「文化芸術特区の可能性」

- 公園及びその周辺での文化芸術活動に係る制限の柔軟的運用（広告制限、道路・スペースの使用、営業行為等）
- 創意工夫あふれる自由な芸術工作物（例えば巨大モニュメント）の規制緩和（建ぺい率・容積率・高さ制限）

国際文化交流の拠点と新たな賑わいづくりに向けた基盤整備

1 快適なアクセスの確保

(1)安全・安心で快適なアクセス・ポイントにするための「JR上野駅周辺の整備」

- JR上野駅の改札正面が園路の延長線上となるよう、公園口を移設。公園口前道路のロータリ化等によって、来訪者が利用しやすい環境を整備。
- 改札付近にフードコートやオープンデッキを設置し、「文化の杜」利用者の利便性を確保。

(2) 公園内の移動や他地域との回遊性を高めるための「アクセス環境の整備」

- 上野動物園内のモノレールの延伸や公園内外を結ぶ巡回バス、パークトレイン、無料貸出自転車、人力車サービス等、移動の利便性を検討。
- 上野「文化の杜」全体の駐車場不足の解消のため、大型バス等の大規模な駐車場の設置。障がい者が訪問施設のそばで乗り降りできる工夫も必要。

2 展示スペースや共同利用施設の整備

(1) 3,000万人の集客を実現するための「展示スペースの充実」

- 各文化・教育施設においてさらなる展示環境の整備充実を図るとともに、新たなスペースを確保するなど、公園内外に展示スペースを充実させることが必要。

(2) 限られた資産を有効活用するための「共同利用施設や地下スペースの整備」

- 景観に配慮したホテル、共通託児所、大規模休憩スペースの設置等、来館者サービスの共同利用施設の整備を検討。
- JR上野駅公園口から「文化の杜」内の各施設にアクセスできる地下スペースを整備し、民間活力を導入した地下モールを整備・検討。その過程において、公園内の道路の歩行者天国の社会実験を行う。

3 安全性の確保と地域防災に貢献するための「防災拠点等の整備」

- 公園内の街灯、防犯カメラの増設、自主的なパトロールの実施等により、「安全な街：上野公園」をアピール。
- 非常災害時の食料等を提供できる防災備蓄庫の整備等、防災拠点の整備。

4 上野全体のまちづくりを活性化するための「エリア・マネジメントの推進及びアートクロス等の整備等」

- 谷根千や周辺商店街との連携など、上野全体のまちづくりの活性化が必要。エリア・マップの作成、清掃美化活動の実施、地域通貨の導入、不忍池周辺の文化利用等を検討し、エリア・マネジメントの推進を図る。
- 国際芸術リソースセンター（IRCA）とともに、東京藝術大学前の交差点（アート・クロス）の整備によって、賑わいのある文化拠点を創出。

新構想の実現に向けて

- 新構想の具現化に向けて、更なる検討・検証を行い、魅力的な「アクション・プラン」を打ち出すことが必要。
- 各施設等の主体的・計画的な取り組みを進めるとともに、「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「上野地区観光まちづくり推進会議」、「上野文化・教育施設機関長連絡会議」等の既存のネットワーク組織を母体として、「文化の杜」全体としてのイベントや環境づくりを推進・実行するための組織を立ち上げ、新構想を実現するため様々な取組を着実に推進する。